

加 佐

学校だより 6月号

令和6年6月3日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



勝負の世界に学ぶ



新しいチームで市民スポーツ祭・中丹総体を迎えます。当然「この一勝！」に向けて頑張りますが、大きな会場に緊張もするし、練習の様子や掛け声の大きさに圧倒されて、相手が強そうに見えてしまうこともあるでしょう。部活動の効果・有用性はこれまでから謳われるとおり、とりわけ勝ち負けがあるからこそその成長は大きく期待されます。勝利に向かって練習を工夫したり、苦しいトレーニングに耐えたりすることは想像しやすく、子どもたちも口にしますが、私からは敢えて、激励会の場面で厳しい話をしました。「負けている場面、追い込まれている場面を想像してみましょう。負けそうなとき、自分はどんな気持ちになっているか？どんな態度・行動をとっているか？状況を冷静に見つめてなお『勝ちたい！』と思えているだろうか？『あきらめたらそこで試合終了』っていうけれど、本当にあきらめずに最後まで全力が出せるだろうか？」試合で起こる様々な場면을より詳細にリハーサルする手法は、スポーツ心理学の分野ではよく使われます。そもそも試合経験の少ない子どもたちにその効果を狙うものではありませんし、自分の心の状態を「俯瞰（ふかん）」する（一歩下がって全体像を捉える）ことは中学生には難しいことです。しかし「負けて悔しかったです。」だけの感想ではもったいない。今年度の加佐中学校の研究テーマは『読解力』です。『心の状態を読み解く』、『感情を言語化する』・・・子どもたちが一番集中している場面を学びにつなげたい。

応援よろしくをお願いします。



争いやいじめの『本性』に気づかせる



6月は「いじめ防止対策強化月間」として、アンケートをとったり2者懇談期間を設けてヒアリングをしたりします。安心・安全な学校を目指していますが、いじめが「ゼロ」にはなりません。（「からかい」や「イヤな言葉かけをされる」こともいじめと捉えているからです。）未熟な者同士が生活を共にしていますから、傷つき、傷つけてしまうこともあるのです。

先日の修学旅行では、広島平和記念資料館を見学しました。戦争（原爆）の恐ろしさを生々しく伝える写真を直視できず、館内をスルスルと通り抜ける生徒がいました。つらくて受け止められなかったのだと感じました。人間が生物として持っている利己的で残酷な側面を「自分事」として認識するには、相当な力が必要です。一人ひとりが『平和学習をどのようにまとめるか？』方向性は様々でしょうが、「いじめ」にも「戦争」にも共通する何か？があって【平和セレモニー】だからこそ我々は学び続け、理性でそれらを補わなければならないことに気づけるか。修学旅行の一番の思い出が、広島『平和記念公園』であってほしい。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬
教職員一同

